

【配点】 ①・③ 各1点×30 ②・④ 3・6 1・5・⑤ 7 各2点×11 その他各4点×12

1 原因 2 永続 3 衛生 4 簡易 5 収益

6 演じる 7 往復 8 不可欠 9 時価 10 快い

11 差額 12 発刊 13 慣れよ 14 基づく 15 営業

16 規約 17 義理 18 逆らう 19 観桜 20 境界線

2 主ウ 1 主イ 2 主イ 3 主イ 4 主ア 5 主カ 6 主カ 7 主イ 8 主イ 9 主イ 10 主イ 11 主イ 12 主イ 13 主イ 14 主イ 15 主イ 16 主イ 17 主イ 18 主イ 19 主イ 20 主イ

3 1 エ 2 カ 3 ア 4 イ 5 オ 6 ウ 7 オ 8 ク 9 キ 10 工

4 1 I 構造を工夫する II 交通手段を使う

2 遠く 3 ウ 4 アイアウ 5 いでしよう

6 1 自力 2 自然の力 3 風 4 水 5 動物の毛に 6 種子をおおった甘い果実を食べる

5 1 青柳さんとピアノの練習をするこ

2 ア 3 心配して 4 一人で駅で 5 申し訳ない

5 言い訳 6 A エ B イ C ア 7 す

(6 完答)

(4 完答)

(1 同意可)

(6 同意可)

(3・4 順不同・完答)

(2 完答)

(4 完答)

(4 完答)

(5 完答)

(1 完答)

(2 完答)

(3 完答)

① (漢字の書き取り)

1から20までの漢字は全て、ベシツクのトレーニングにて出題、あるいは紹介されているものである。毎回の宿題プリントの漢字部分に通り取り組み、書けなかったものやわからなかったものに対して、しっかりと覚え直しの練習をしていけば、全て正解できるはずである。宿題プリントの漢字部分は、ただ機械的に書くのではなく、覚えることを目的として取り組んでいってほしい。また、漢字を書く際は、一画一画をはっきりと書くことを心がけてほしい。

② (主語と述語)

述語は、基本的には文をしめくくる文節なので文末にくることが多い。まず、述語を見つけてから主語をさがすようにしてほしい。主語は名詞(ものごとの名前)に「が・は・も・こそ・さえ・まで」などの語がつき、述語に対する主体を表す文節である。「を・に・と・で・へ」などの語がついている場合は主語とはならないことも、もちろん知っておこう。

③ (接続詞)

接続詞は、その接続詞をはさんだ前後の文、語句、言葉の関係によって決まるものである。前後のつながりを意識して答えることができれば、問題なく正解できたのではないだろうか。前後が自然な流れならば順接、不自然な流れならば逆接、前の内容の後で何かを足しているなら添加・並列、など。間違えた問題は、授業で習ったところを確認しておこう。

④

1 本文中では、人間が生活の場を広げる手段と植物が生活の場を広げる手段が対比的に描かれている。本文三段落目から七段落目に、移動することができると種子の様々な構造の例が書かれている。しかし、Iは様々な構造を持つ種子のうちの一つではなく、種子全般のことについて問うているのである。八段落目の冒頭の「このように」に気づいただろうか。八段落目ではここより前の例をまとめていっているのである。IIは、——線①の次の文に「私たちが生活の場を広げるためには、どのような手段を使うでしょうか」とあり、その次の文に「歩いたり自転車や自動車、さらに船や飛行機といった交通手段を使う」とある。ここから七文字がせただろうか。

2 ②のあとに「まだあります」とある。ということは②に入る内容はここより前に出てきており、並列されているのである。

②を含む段落内に、「動物が移動することで種子もいっしょに遠くへ運んでもらう」とある。しかし、問いの指定は「ここより前から」なので、「遠くへ運んでもらう」に相当する部分をここより前からさがすこと。

③の二行後に「なかなか思いつくアイデアはありません」とある。もちろん、ここで「なかなか思いつかない」といっているのはエンジニアである「私」である。③の直前に「エンジニアが」とある。そこに気づければ容易であった。

4 「の」の用法として代表的なものは、「が」に置きかえることができるもの(主格)、「の(こと・の)もの」などに置きかえることができるもの(準体言・体言代用)、「の」の上の語が下の語をくわしくしているもの(修飾語を示す「の」)である。覚えておこう。

5 脱文補充の問題は、そのぬかれていた一文にヒントがあることが多い。今回の文の冒頭に「したがって」という順接の接続詞がある。ということは、「種子が強くなければならぬ自然な事情・理由が「したがって」以前にあることが考えられる。それを手がかりに本文をさがしてほしい。

6 本文中では並列が多用されている。それを表としてまとめたものである。まず、種子の移動方法が「自力」「他の力にたよる」で並列になっている。さらに、「自力」でどのように移動するかが並列されている。また、「他の力」も「自然の力」「動物」が並列になっている。そのそれぞれでさらに並列になっている。「まず」「もうひとつ」など、並列の目印になる表現に注目して読めたらだろうか。

⑤

1 ——線②の五行後に「青柳さんのことが頭をよぎる」とあり、さらに次の段落を見ていくと青柳さんと駅で待ち合わせをしていることがわかる。また本文後半の青柳さんと海斗の会話から、待ち合わせはピアノの練習をするためだったことがわかる。

2 「何かあったのかい」と青柳さんにたずねられた海斗が「おれ、最近全然うまく弾けなくて」と答えていることから考えよう。

3 海斗を見つけた青柳さんが「心配していたんだよ」と声をかけている。またBの五・六行後に「青柳さんに心配をかける」という後ろめたさがあったから来たのだ」とあり、海斗自身も青柳さんが心配しているかもしれないと考えていたことがわかる。

4 ——線④の直前に「申し訳なさで苦しくなってきた」とある。なぜ申し訳ないのかと考えてさらに前を見ると「一人で駅で待ちぼうけさせる」とあり、これが1に入ると思われる。

2 Bの次の行からの「申し訳ないと思ったから来たのかい」とたずねられ「はい」と答えているところに注目しよう。

5 ⑤を含む一文が「それならへたな⑤をしなくてすむ」となっているので「それ」の指す内容を確認すると、直前に「青柳さんはもう帰ったかもしれない」とある。海斗が考えていることをたどって、青柳さんがまだ帰っていないければ何をしないといけないのかをさがしていこう。——線④の四行後に「青柳さんになんと言いつくせよ」とある。青柳さんがまだ帰っていないかと思いつく。

6 Aは、直後に「よかった。何かあったのかと心配していた」とあるので「ほっとした」が入る。Bは、直前に「静かに話をきいていたが、やがて」とあるのだから「おどろいた」は入らないだろう。真剣に話をしている場面なので「落ち着いた」「まじめな」はどちらも入りそうだが、「落ち着いた」は別のところで使うことになる。Cは、「とつぜんの提案」に「思わず」「声が大きく」なっていて、おどろいている様子である海斗と「対照的に」とあるので、「落ち着いた」が入る。

7 「見すかす」とは、表に出ていない真相や真意を見ぬくことである。以上